

2000 年 10 月 30 日 定例社長会見 <要旨>

質問：あらためて、日本シリーズの感想を。

氏家社長：

今までのパターンに入らない優勝でしょ。2 回負けたら 80%近くやられてたんだから。

それが、4 連勝。4 連勝っていうのも珍しいんだけどね。

やっぱり、つくづく思うのは長嶋監督って人は特殊な運を持っているんだなって思ったね、あれを見てたら。いい選手も揃えてますよ、しかしいい選手そろえていたって、たとえばダイエーの小久保くんみたいにね、筋肉 痛くしちゃって出られなくなっちゃうっていうケースもあるわけで、そういうケースはうちにもあったんだけど、今回はそれが無くてね。

そんなことを、すべて総合するとね、やっぱり彼は稀有な男なんだなという気がしましたね。あまり、普通じゃないことをやる。生まれながらにしてメイクドラマ的なところがあるんだよね、そういう人っているもんだよ。

質問：日本一を花道に、長嶋さんが勇退するっていう記事がいくつか出ているんですけど、これはどのへんから出た話なんですか？

氏家社長：

それは、出ているというよりも、長嶋くんはそういうトレンドがあるってことなんですよ。彼、年が年だし、監督としては最年長の優勝だとかそういうことを自分で考え

て、美学的なことを考えているんじゃないかってところからくるんでしょう。

質問：実際にはそうではなく、来期も？

氏家社長：

我々はね、やってもらいたいんだよ。

質問：札幌で行われた民放大会であらためて、地上波デジタル化問題の公的支援を強調されましたが、それに関してお願います。

氏家社長：

当初から言っているように、非常に私は簡単な理論構成でしてね、飛行場と同じじゃないか、これは。国の都合で飛行場は拡張する。国の都合でアナ アナをデジタルにする。今のアナ アナだって、何の不都合もないわけですからね。

とくに視聴者の方なんかはね、まったくアナログもデジタルもないんだよね。「見れりゃいいんだ」って感覚でしょ、そういう方も第一段階のアナ アナ変換で、おかしい形になっていくというのは、政策の結果だから一方的に面倒見るという。これは、どこに行っても通用する議論だと思いますけどね。

質問：表現の自由、報道の自由との件というのは、かなり強調されていたと思うんですが、そこら辺の圧力というのは強まって来ているんでしょうか？

氏家社長：

こういうものはね、早く芽をつんでおかなきゃならないってところがありますからね。大きくなってからは、芽がつみにくくなるし。また、大きくなって、摘みにくくなって1歩譲歩しちゃえば、さらにまた譲歩を迫られるということがあるものだから、民放連の会長になってからもそうだし、若いころからもそうでしたけど、そういうものは早めにやれと。早めに徹底的にやれと。表現の自由と、報道の自由だけは守っておかなくちゃ、民主主義の世界はなりたないぞ。というのは基本的な考えにしていますからね。

質問：C Sの110°事業について。先日ワン・テン企画、プラットフォーム事業ですが、これが発表されましたが、事業展開についてどういう戦略でいくのか、お聞かせください。

氏家社長：

かねがね申し上げているとおり、金のかからないプラットフォーム事業はひとつ必要なんじゃないかと。日本のC S衛星放送事業にはね。とくに通信がはいってきますからね。C Sワン・テンというのは非常に使いやすい場所にあるし、我々としてもデータ放送、多機能放送に使えるんじゃないかということがありましてね。その両面から考えていたわけですけども、片一方の企画会社はNTT コミュニケーションズさんとかドコモさんとか、ほかにも事業会社として立ち上げたら一緒にやろうかというよ

うなところも、いくつかおありのようですけれども、とりあえず最初にあまりたくさん無いほうがいいってことで、企画会社の段階ではね。

新しい形のプラットフォームをどうするか、ということを考えている。ほぼ軌道にのってきているかなという感じがします。

我々の方のCSはですね、株主になっていただいているイトーヨーカドーさんとか、帝京大学とか。おわかりのように、物を売ることの双方向性。それから、教育番組の双方向性ということは視野に入っているわけです。

ただ一方的に、地上波のように番組を流して見ていただくということでは無しに、視聴者参加とかね、言葉はヘンだけど放送の平面化から立体化っていう感じで、進めていったらいいんじゃないかなということだね、これもね、だいたい思ったとおりに行っていると思っています。

質問：BSについてですが。先日、編成も発表されましたが、それをご覧になってどういう風に思われますか？

氏家社長：

僕が、これを原則としてというのは、とにかく費用対効果を徹底的に考える。いいよいいよでお祭りみたいなことをやっていたら、あっという間に赤字が100億円や200億円はすぐ出る、ということをいっておいたんですがね。そういう意味では、極めて苦心の作だって気がしますがね。

漆戸社長：

氏家社長が言われたとおりでして、私どものほうはNNN24というニュースを基調

にしております。したがって、ご質問が出るんですがトータルの番組比率からいってどうだこうだっていう、話しが出るんですが、正確な計算はそのときによって随分動きますから正確では無いんですが、朝とか昼とかの部分はほとんどNNN24で。視聴者のみなさんも、地上波の定時ニュースしかないところを、ニューモアチャンネルという考え方で、地上波に無いところをBSの方で補っていかうというのが基本的な番組構成概念です。

その他には、BS日テレで独自にどういった番組が組めるかというところが、それ以外の番組。比率的に言うとだいたい7：3くらいですかね。その番組につきましても、地上波には無い番組ということを念頭において番組編成をしています。その中でもとくに、BSデジタル放送の特色を生かしたものの番組編成を中心に考えてますから、やはり一番念頭においているのが、ハイビジョンですね。高画質の放送、これは本当にキレイです。今の地上波も相当キレイですが、やはりBSのデジタル放送ということになると、それを対応する受像機を設定していただかないと、みなさんのもっている受像機にダウンコンバートしてみちゃうと、その機能が半減されてしまうんですが、新しく売り出されている、BSデジタル放送のハイビジョン受像機ですと、本当にきれいです。という意味で高画質の番組、それからもう一つはデータ放送を中心にした双方向型の番組、例えばその典型的な例が、「キング・オブ・クイズ」みたいなかたちでもって、視聴者参加をしてもらえる、目玉といえば目玉になります。

その他、美術番組とか、そういうのは逆に番組連動のデータ放送がつく。というような番組を中心に、BSの場合どこが地上波と違ってどこがゴールデンなのかなっていう考えかたが、これから固まってくると思いますが、少なくとも19時とか20時というようなところは、地上波のゴールデンにお任せしておいて、それ以外の枠、特に

深夜とは言わないですが、22 時以降のところでは B S のゴールデンだろうという、編成の考え方をとっています。

あとは、B S 独自の考え方をどういう風にして全面的に打ち出していったらいいだろうという考えかたが、地上波と同じことをやっていたら何の意味も無いわけですから、そのへんのところが、一番苦心をしたところです。

したがって量ではなくて質ということで、今後の番組展開は考えていきたいと、思っています。とりあえず、12 月から来年 3 月までの基本的な編成となっておりますから、来年 4 月以降はさらに、B S 独自の番組を編成展開上は増やしていくという、ある種長期的な考えかたに立って、番組編成を考えていきます。

以上